

令和5年度

新たな都市デザインあり方検討

都市デザイン室

1 新たな都市デザインあり方検討の全体像（イメージ）

これまでの都市デザイン

理念

魅力と個性のある
人間的な都市空間の創造

人間にとって重要な価値を大切に

7つの目標

- ①歩いて楽しい
- ②地形や風土を大切に
- ③歴史や文化を大事にする
- ④緑を豊かにする
- ⑤水辺を大切に
- ⑥人が集う広場を増やす
- ⑦人の心を動かす美しさ

理念と実践

実践



振り返り

- 温故知新
- やり残したこと
- 市民の評価
- 今後も継承すべき都市デザインの強み

展覧会・アンケート
ヒアリング

×

新たな潮流をつかむ

- 社会の変化
- 横浜の変化

×

未来会議
レクチャー
他

望まれる暮らし

- ボトムアップ
- 市民感覚／企業感覚

未来会議
ワーキング

令和4年度の主な取組み

新たな都市デザインありかた検討

理念

魅力と個性のある
人間的な都市空間の創造
→都市デザインそのもの
継承していく

7つの目標

→整理して加筆
アップデート

×

都市デザイン室の
役割の再設定？
+アクションプラン？

相互影響

具体的取組み

2 未来会議の開催

【概要】

- 横浜での住む、働く、遊ぶなどの暮らし全般の観点からも社会や横浜の状況の変化を捉え、新たな潮流をつかむことを目的
- 都市横浜の未来を共に考え、個性と魅力あるまちづくりについての幅広いアイデアを共有する全6回のワークショップ

【参加者】 平均年齢：約38歳

横浜市職員16名

(区役所、港湾局、建築局、医療局、市民局、環境創造局、道路局)

大学生5名

(東京大学、早稲田大学、ICU、工学院大学、関東学院)

会社員12名

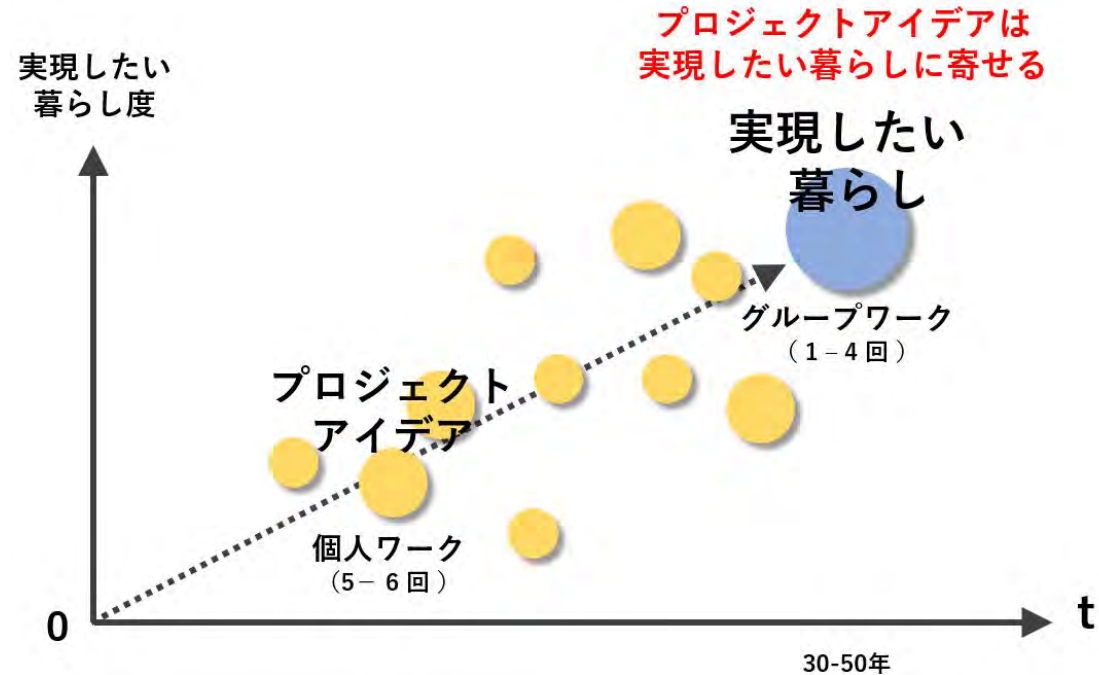
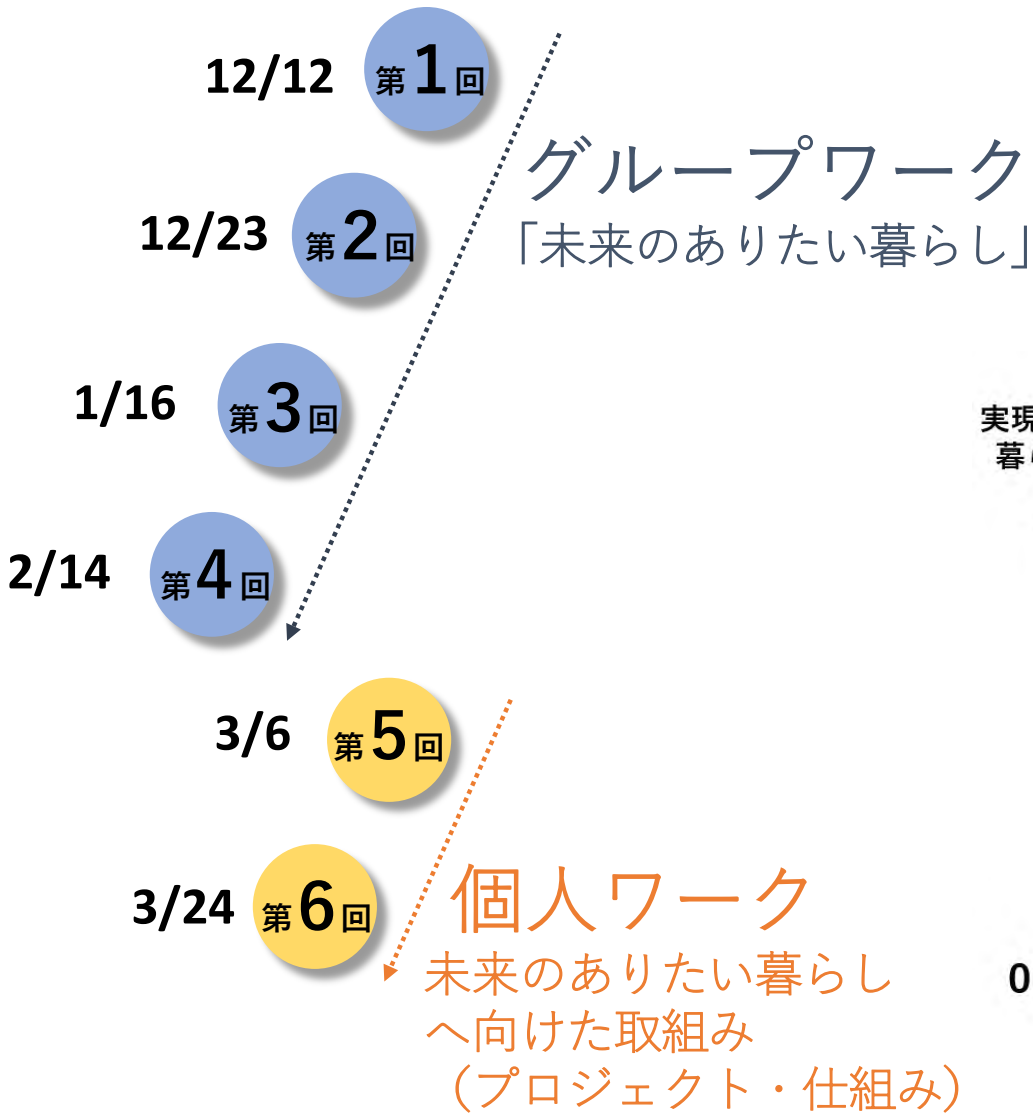
(三菱地所、東急、相鉄ビジネスサービス、KTグループ 他)

自営業4名

市民団体その他2名



2 未来会議の開催



2 未来会議の開催_検討テーマの設定

参加者の希望を元に
グループ分け

1. 都市デザイン横浜の継承と革新

: 未来の普遍的価値を見つける

2. 都心部の可能性

: 開港のまちのこれまでとこれから

5. 横浜のコミュニティ再生

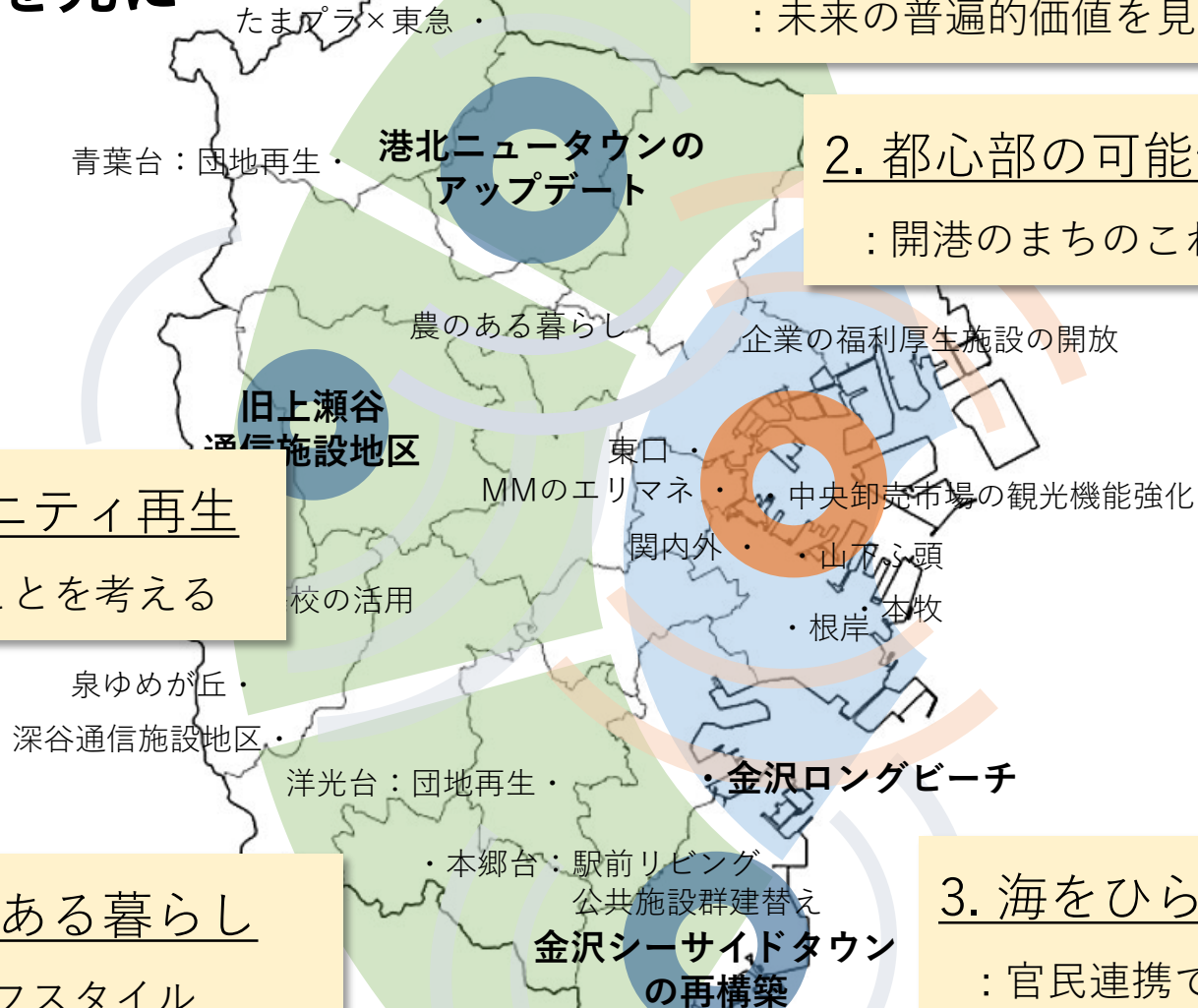
: 集まって暮らすことを考える

4. 水と農と緑のある暮らし

: 横浜らしいライフスタイル

3. 海をひらく

: 官民連携で海の価値を高める



2 未来会議の開催__メンター・ゲスト講師の講義

12/12

第1回

12/23

第2回

1/16

第3回

2/14

第4回

グループ発表

3/6

第5回

3/24

第6回

個人発表

都市デザインの基本的な考え方

都市デザインがもたらす横浜の未来

歴史-現在-未来の時間軸をもつ。
(時間が経つと豊かになるまち)

大きな視野(ビジョン)と小さな行動(アクション)

視野を拡張して重ね合わせる
(都市デザイン × OO)

今、求められる豊かさとは何か？
(暮らし・いとなみ・ふるまい)

有限時代・不確定時代における「実験」都市
(バックキャストिंग)

横浜国立大学
野原卓先生

key word

○都市デザイン
= 大きなまちづくりと
小さなまちづくりの調停
= まちを変える仕組み
= 豊かさの根っこ探し

横浜暮らしの可能性を知る

『暮らす』から見る横浜の未来

私の考えるキーワード:

- ・多層な暮らしの「圏」の存在
- ・連携・協働の相手像(同分野・異分野)
- ・当事者意識と主体性の醸成
- ・専門性の弱い「場」×専門性の弱い「人」
- ・「場」の重要性と参加デザイン

横浜市立大学
三輪律江先生

key word

○子育て、ケアの視点からの都市デザイン
○ダイバーシティ
○ライフステージごとのまちとの接点

2 未来会議の開催__メンター・ゲスト講師の講義

12/12 第1回

12/23 第2回

1/16 第3回

2/14 第4回 グループ発表

3/6 第5回

3/24 第6回 個人発表

都市のレジリエンスを高める環境と社会のデザイン

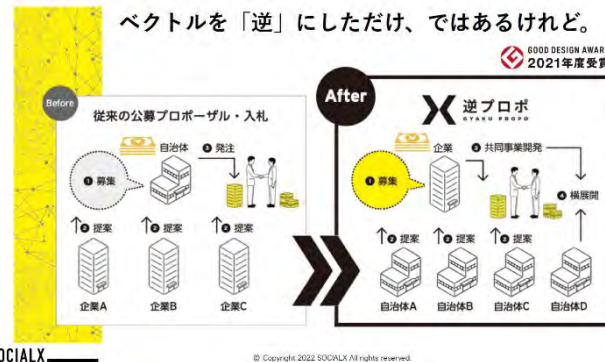


水辺総研
滝澤恭平氏

key word

○流域治水 ○生態系、水循環を
市民、民間、行政協働で育み、気
候変動や災害に対して、しなやか
な余力のあるレジリエンスな街へ

社会課題と企業と公共



ソーシャルX
伊藤大貴氏

key word

○準公共分野と官民共創
○企業が社会課題の問いを
立て費用も出さず時代

2 未来会議の開催__メンター・ゲスト講師の講義

12/12 第1回

12/23 第2回

1/16 第3回

2/14 第4回 グループ発表

3/6 第5回

3/24 第6回 個人発表

都市はこれからどこへ行くのか？



東京大学
羽藤英二先生

key word

- ローカルアイデンティティの共有
- リニアによる東京拡大に取り込まれない横浜のあり方

これからのコミュニティデザインとウェルビーイング

おやまちプロジェクト

新しい暮らしの場としての「商店街」の再構築：創造的な出会い、住民がともに暮らしをつくっていく実験室



ウェルビーイングデザイン (Panasonic)

SDGsの授業 (岡山小学校)



地域政策研究、まちの再構築 (ふくらみクリニック等々)

SAKAKURA kyosuke | Tokyo City University

東京都市大学
坂倉杏介先生

key word

- 個人のウェルビーイングと地域社会のイノベーションを実現させる
- コミュニティマネジメント
- 創造的なエラー

2 未来会議の開催_グループワーク

1. 都市デザイン横浜の継承と革新 : 未来の普遍的価値を見つける

都市デザイン横浜の継承と革新 ~これからの都市の有り様と都市デザインの数値~ **未来会議**

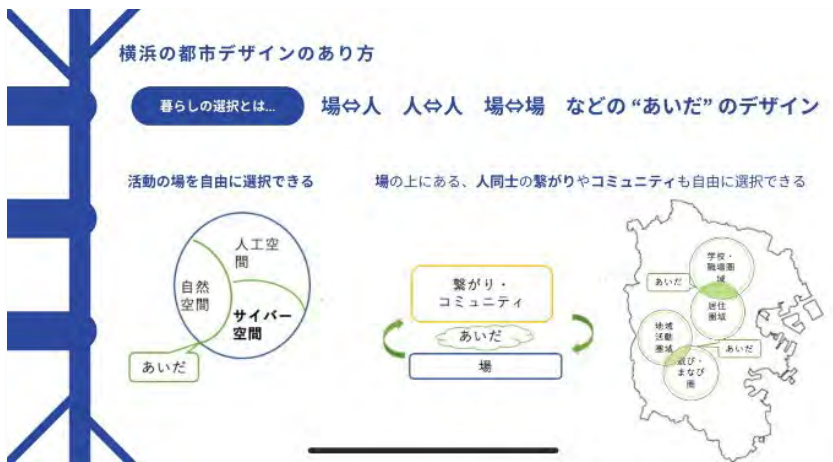
Pluriverse City YOKOHAMA

コア つくる	個性と魅力ある人間中心のまちをつくる ＜都市デザインの7つの目標（継承すべき価値）＞ 1 歩行者活動を促進し、安全で快適な歩行者空間を確保する 2 地域の地形や植生などの自然的特徴を大切に 3 地域の歴史・文化的遺産を大切に 4 オープンスペースを増やす 5 海、川などの水辺空間を大切に 6 人と人がふれあえる場、コミュニケーションの場を増やす 7 形勢的、視覚的美しさを求める 8 自然環境を大事にする 9 場とコミュニケーション、場と生活などの関係を	ソフト つくる	「私のStory」が織り込まれるまちにする ＜ 継承すべき価値 ＞ 1 自分が自分中心を認め、大切に、育てる 2 自分で選みを選び、選ぶように人生を豊かにする 3 人、地域、選みの個性を認め合い、大切に、育てる 4 中立的な選みを選ぶ 5 コミュニティの自立した選み、コミュニティ同士の共創する選みを増やす
		サイバー つくる	リアルとサイバー、自由に空間を行き来するまちにする ＜ 継承すべき価値 ＞ 1 サイバー空間とリアル空間がシームレスに繋がることを楽しみ、空間を豊かにする 2 ソフトの「継承すべき価値」を同じく継承する。

＜ keyword ＞

- 多元的な自分らしさを支える環境としての都市
→ 市民一人ひとりが自分らしい暮らしを「選択」できる

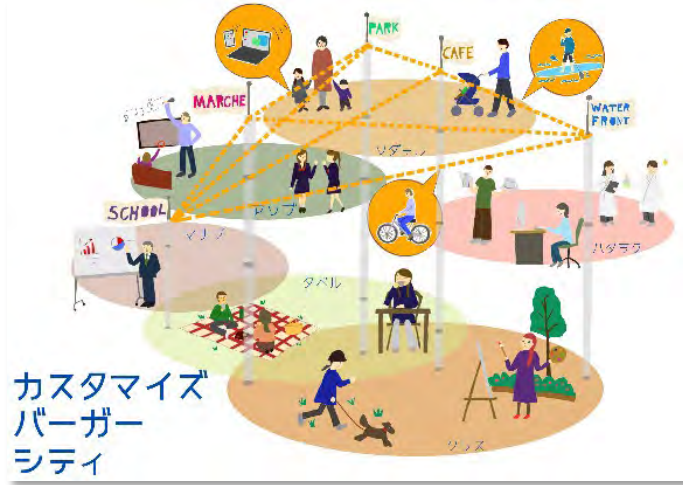
- 人間中心の継承
これまで「ヒューマニティ」
これから「パーソナリティ」生命中心
→ 「わたし中心」×「中庸・寛容」



- 場／人、人／人、場／場などの間をデザイン
→ 多様な選択と組み合わせ
(Pluriverse = 多元的な世界)

2 未来会議の開催_グループワーク

2. 都心部の可能性 : 開港のまちのこれまでとこれから



- ・リアルな都心部ならではの魅力を創出
- ・様々な主体が集まる都心部
 - それぞれが実現したい暮らし（具材）のある都心
 - 暮らしと暮らしをつなぎ留める、共有する場（ピック）の必要性

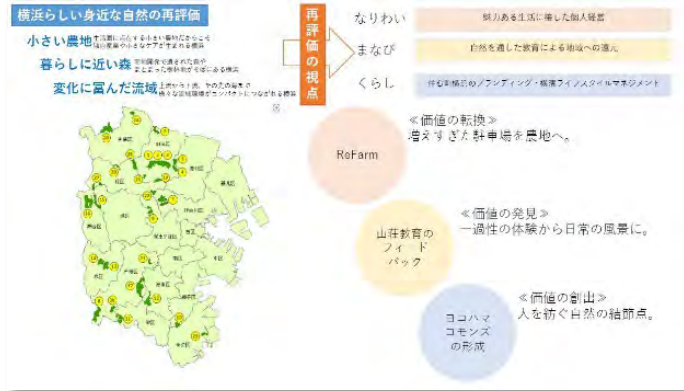
3. 海をひらく: 官民連携で海の価値を高める



- ・官民共創で 共通の価値観を生み出し、制度改革、クラファンなどを活用しながら、段階的に変化を促す
- ・眺めるだけの水辺から、触れて楽しむ水辺へ
- ・未来の港湾観光都市には海との共生が求められる
- ・多様な海のあり方が横浜の価値、競争力になる

2 未来会議の開催_グループワーク

4. 水と農と緑のある暮らし: 横浜らしいライフスタイル



- ・ 横浜らしい身近な自然の再評価
→生活圏に点在する小さい農地
暮らしに近い森
様々な流域環境がコンパクトにつながる横浜
○生活に接した部分での小さな自然の再生
○自然を通じた教育による地域への還元
○コミュニティの場としての自然の結節点

5. 横浜のコミュニティ再生: 集まって暮らすことを考える



- ・ コミュニティは多様化する一方で人口（担い手）は減少
- ・ 行政で担う仕事も大部分が民間や個人へと移行
- **小さな力を集約**：個人の「とくい」が地域の「ほしい」
に変わるマッチングと利他の循環システム
- **流動的なサービスや拠点**：自分にフィットするグラデー
ションのように選べるコミュニティとそのあり方をサ
ポートする新たな場（デジタル世界を含む）の創造

2 未来会議の開催_個人ワーク (例)

Group : 2 都心部の可能性

横浜のこれからの「都市デザイン」を考える
未来会議
みらいかいぎ

人や企業をつなげる “ショーケース”



最近って...

- オンラインのコミュニケーションやサービスが充実
 - ➡ まちには“リアルだからこそ体験できること”が求められている
- インターネットは個人の興味・関心に沿って情報を提示
 - ➡ “人”や“場所”は、まったく知らない分野との偶然の出会いを期待されている
- 企業・団体のほか、SNS等を通して個人も情報発信が可能
 - ➡ 発信の主体も内容も多種多様

都心部の特徴

- ヒトとモノが集まる場所
 - ➡ 化学反応が起きて、新しい商品やサービス、価値観が生まれてきた
- 水辺空間や開港以来の文化・歴史、景観など、これまで育ててきた資源が豊富
 - ➡ 訴求力の高いコンテンツを生かして魅力づくりが可能
- “知られざる”魅力、“実はおもしろい”人が眠っている
 - ➡ 隠れた宝を表に出せば、まちを訪れる人に新たな気づきや刺激を与えられる



➡ 誰もが発信源となり、自らの興味関心や事業、活動を横浜の魅力として伝え、人や企業をつなげていく場所「ショーケース」をまちに増やしていく

ショーケースで何をやるの？どんな効果がある？

◎企業の「ショーケース」

- やること
- ・商品やサービスの市場調査
 - ・オンライン販売の期間限定店舗
 - ・事業パートナーの募集 等

- 効果
- ・他社の社員との交流が生まれ、新たな事業の創出につながる
 - ・福利厚生との共有、サークル活動などにつながる

◎個人の「ショーケース」

- やること
- ・ハンドメイドのスイーツを販売
 - ・趣味で撮影した写真を展示
 - ・卒論のリサーチ
 - ・おすすめの本を持ち寄る 等

- 効果
- ・自分を表現できる
 - ・リアクションが励みや刺激になる
 - ・様々な人に向けて発信できる

➡ **新たな気づきやチャンス、チャレンジの機会**ができる！
常に変化するまちに触れられるため、**訪れるたびに刺激が得られるまちに！**

どんなスペース？

◎常設・仮設



YADOKARI HAWK



北陸アーキテクチャープラス
まちなかテント

どんなスキーム？

◎既存の取組みを生かす



LOCAL BOOK STORE
kita



さくらみらい
マルシェ

◎新たに設ける

- ・企業が自らの敷地に設ける
- ・ほこみちの占有者が設ける
- ・町内会館をショーケースにする

どこでやるの？

◎空地や公共空間を活用



大学キャンパス



既存ビルの一 corner



公園



道路

2 未来会議の開催_個人ワーク (例)

Name : 永松大樹 Group : 3_海をひらく

横浜のこれからの「都市デザイン」を考える
未来会議
みらいかいぎ

横浜の水辺をつなぐ地域の足をつくろう!

“横浜の海”をもっと便利にもっと身近に

「海の駅」は、誰でも、気軽に、安心して、楽しめる施設、横浜には4か所が整備されている
陸から海から、どちらからでもアプローチできるマリンレジャー拠点となっている

これらの施設と連携し、新たな海の駅、もしくは補助的な役割をもつサテライト施設を拡充することで、
水辺をつなぐ“地域の足”のネットワークを構築していく

市営バスや市営地下鉄のような、横浜市民が便利に乗り降りできる移動手段として、通勤・通学、
買い物や通院など、暮らしが便利になる交通ネットワークを既存の公共交通と連動して生み出す

電車の駅を中心に開発が進み、主要な駅周辺では慢性的な渋滞、駐車場の混雑などが問題に
なっており、海の駅を中心とした街づくりと併せて、車に依存しない新たな移動手段を増やすことを
行政と企業一体で推進していく

水辺をつなぐ地域の足を実現するためのポイント!

安全
であること

便利
であること

低料金
であること

魅力的
な乗り物

環境に
やさしい

身近
であること



2 未来会議の開催_個人ワーク (例)

Group : 4

横浜で楽しむ サブスク農業プロジェクト

月額料金を支払えば、市内の農地と農業に必要な道具類を自由に借りて農業を行うことができる仕組み。

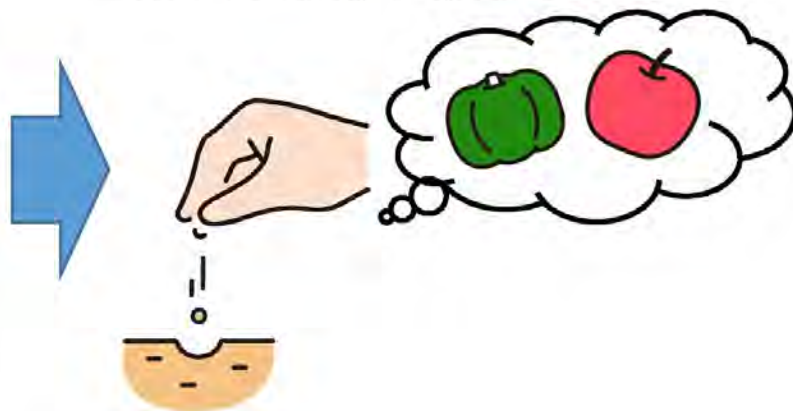
Step 1
借りたい農地と道具を専用
アプリで申請する



Step 2
必要な道具が届いたら、
利用申請した農地へGo!



Step 3
自分のライフスタイルに
合わせた農業を楽しむ



2 未来会議の開催_個人ワーク (例)

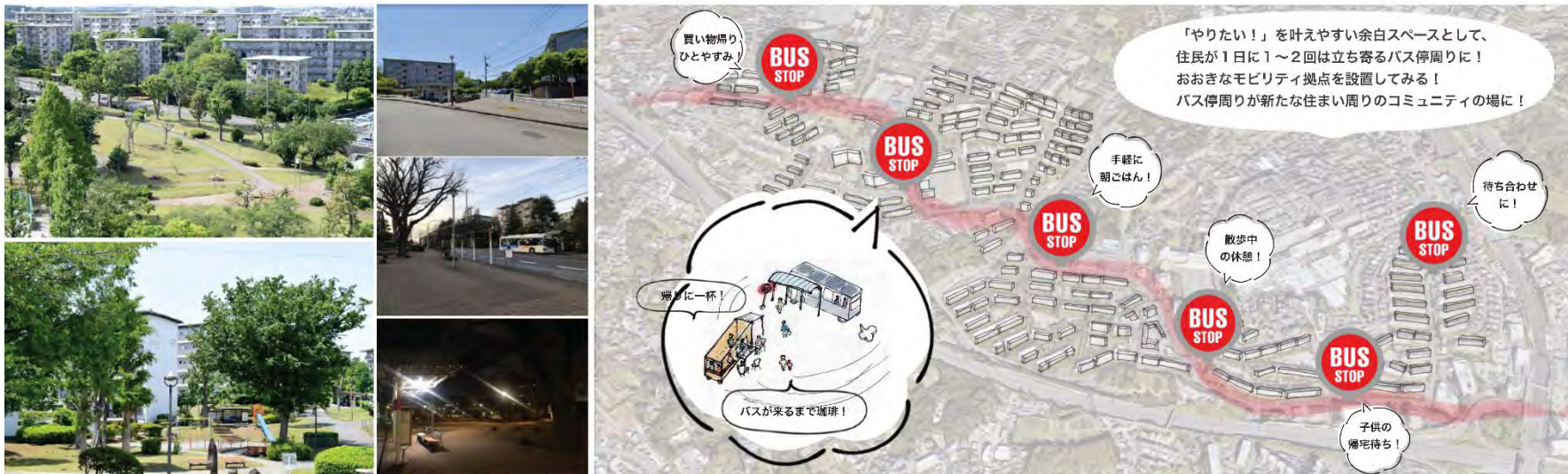
Name : 楠本 藍

Group : 5

やりたい! すき! とく! が巡ると満足が広がる暮らし

横浜のこれからの「都市デザイン」を考える
未来会議
みらいかいぎ

ダンチのみんなのよはくPJ -団地のバス停から循環するコミュニティ-



●いまある団地の仕掛け事例と本PJのターゲット



●拠点のハードイメージ

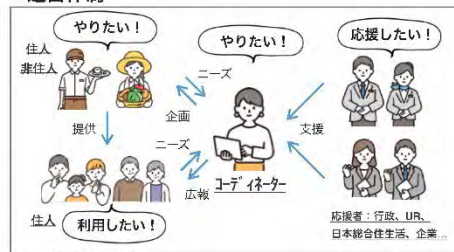


- ① 極力活動が天候に左右されない
- ② 少人数すぎない集いが可能な大きさ
- ③ 極力手続きに手間がない (確認申請不要・公道公園には設置しない)

●将来のビジョン

- 【短期】 実証実験による、循環コミュニティの浸透
- 【中期】 鉄道駅より身近な駅(住まい周りの徒歩利用)であるバス停のあり方の変化
- 【長期】 「みんなの余白」のある都市デザイン/建築計画

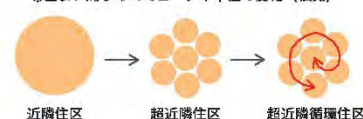
●運営体制



●収支イメージ



※住まい周りのコミュニティ単位の変化 (私見)



2 未来会議の開催__キーワード

- 多元性** ⇒ヒューマニティからパーソナリティへ、
一人一人が選択できる暮らし(カスタマイズ)、
つながれる場やソフトのデザイン
- 官民共創** ⇒準公共という分野、社会課題はに官民がで取り組む
- 自然資源の価値化** ⇒横浜が残してきた都心に近い身近な自然の再評価、
次世代の海の価値、
グリーンインフラの防災、生態系、地域振興等の多様な効果
- ICTの積極的活用** ⇒コミュニティのあり方、都市のあり方
- トップダウン（大きな都市デザイン）と
ボトムアップ（小さな都市デザイン）の調停**
- ダイバーシティ** ⇒誰かを想像する力、ケア

4 金沢区マスタープロジェクト



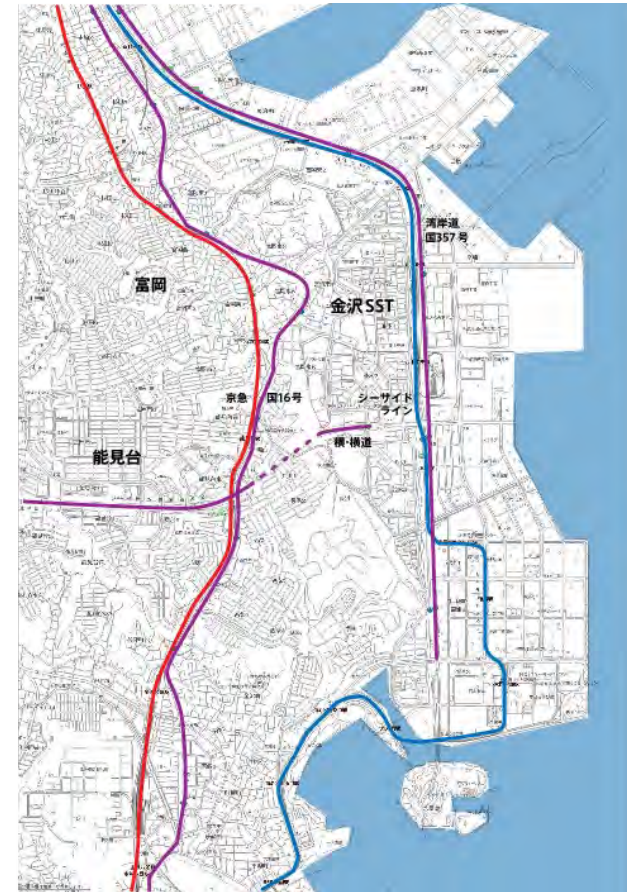
4 金沢区マスタープロジェクト

背景

- 丘陵部と16号線、臨海部と住宅地エリアの分断
- 横浜の魅力は「海や港が身近にある」が半数以上。しかし実情として公開されている海岸線は限定的（金沢はその中ではポテンシャル大）
- 歴史的背景と共にある緑地、公園の多さ
- 市南部の縮小傾向（金沢区の高齢化率は36%・人口減少）
- 丘陵地の高低差、高齢化、交通空白地帯の存在
- 横浜市大、関東学院大が立地。まちづくり拠点やコミュニティの形成など、実地に取り組み始めている

機会

- 製造業から物流施設への転換
- 土地利用転換の可能性（産業振興センター、市大病院...）
- 防波堤の再整備と民間の参入
- 小柴自然公園の整備
- 市民団体、大学などの活動（金澤リビングラボ、並木ラボ他）



4 金沢区マスタープロジェクト

「海」をひらく

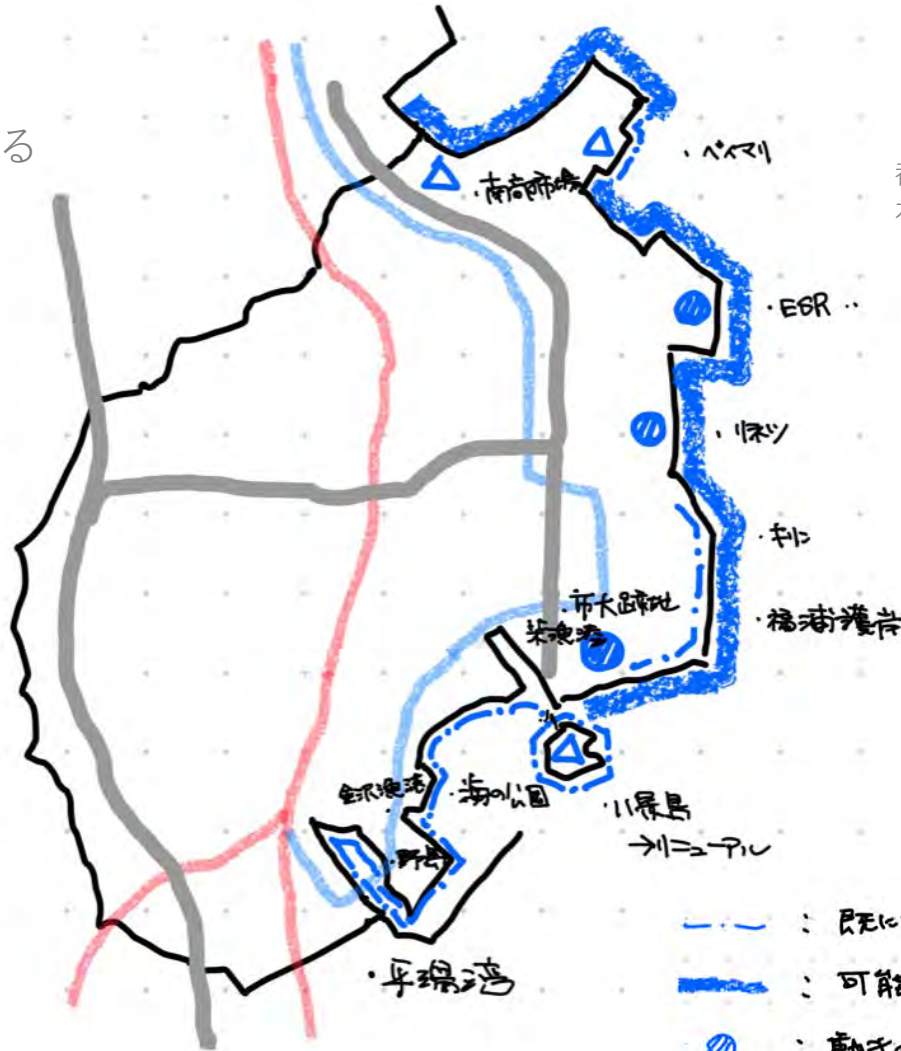
○金沢区最大の魅力である海を暮らしに取り戻す



直売所や飲食施設など、市民に開かれた漁港へアップデート



若年層が働きたいと思うワークエリアを推進



都心部から金沢臨海へ水上交通航路拡充



工業団地の持つ知や施設を開いて市民と工業団地の接点を創出

公有護岸の民間活力活用 / 民有護岸の公共的利用を促進

- : 既にひらかれた海岸線
- : 可能性の海
- : 駅子のある施設
- ▲ : 既存の海辺の施設

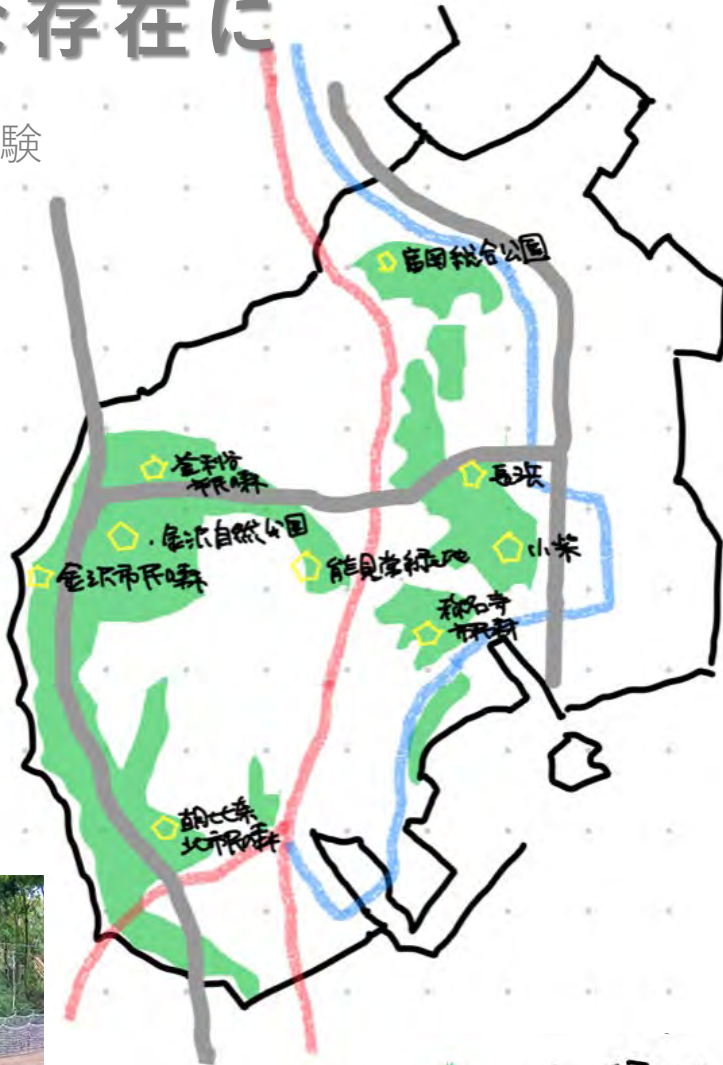
4 金沢区マスタープロジェクト

「山」を身近な存在に

○山や緑、歴史や農の体験方法を増やすことで、身近な存在として、価値を高める。

歴史あるものを
と新しいものを
掛け合わせ
ここにしかない
体験を生む

民間活力に
よって、山／
緑地や公園と
市民の接点を
アップデー



子どもが
自然とのつながりを
感じるしかけを
積極的につくる



4 金沢区マスタープロジェクト

住宅地をアップデートする

○ 住宅地を住むだけでなく
小商いやコワーキング
など、複合的な暮らしの
場所にアップデートする



空き家で小商いや
コワーキングスペース



農のある暮らし / 空き地で農作業



大学と地域の連携拠点や
コミュニティを支えるシェアハウス



4 金沢区マスタープロジェクト

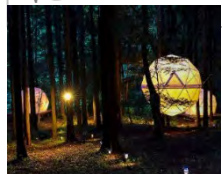
海と丘 自然と暮らすよこはま金沢ライフ



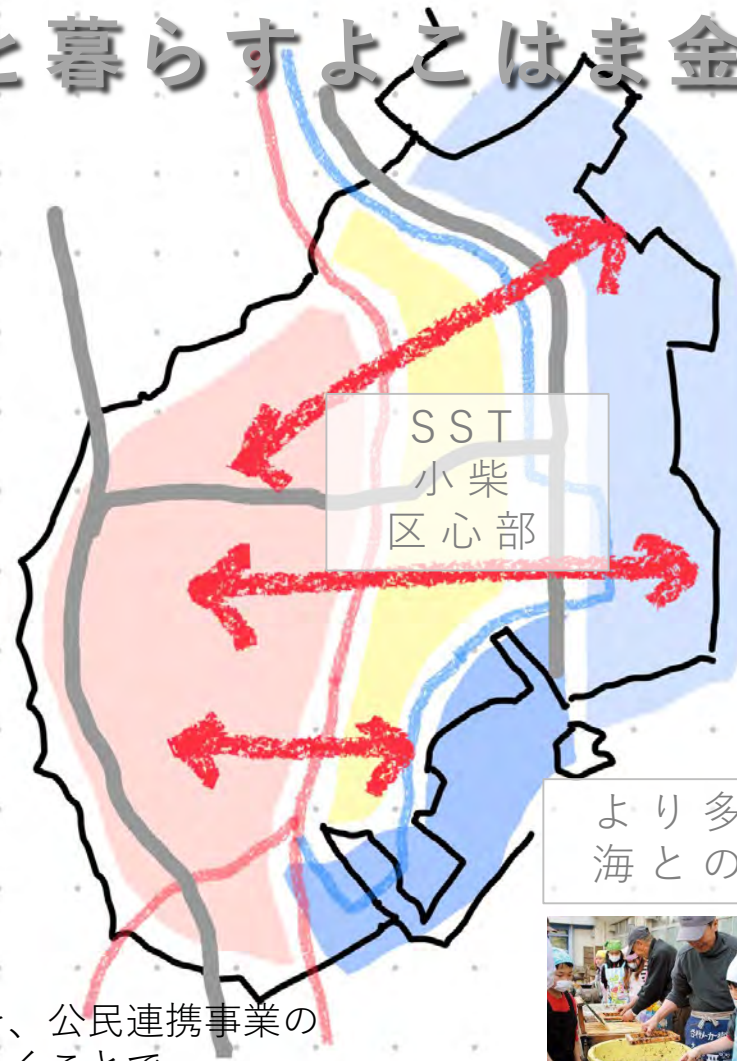
複合的な
住宅地



「山」を身近な存在
に



→金沢での魅力的な暮らしの実現を、公民連携事業の
点的取組みから進め、発信していくことで、
地域を知ってもらい、若い世代の移住を促進する。



SST
小柴
区心部

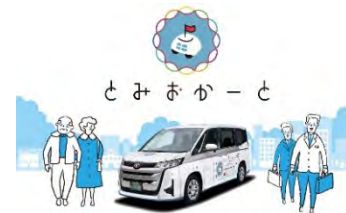
「海」をひら
く



横つなぎの
スローな交通



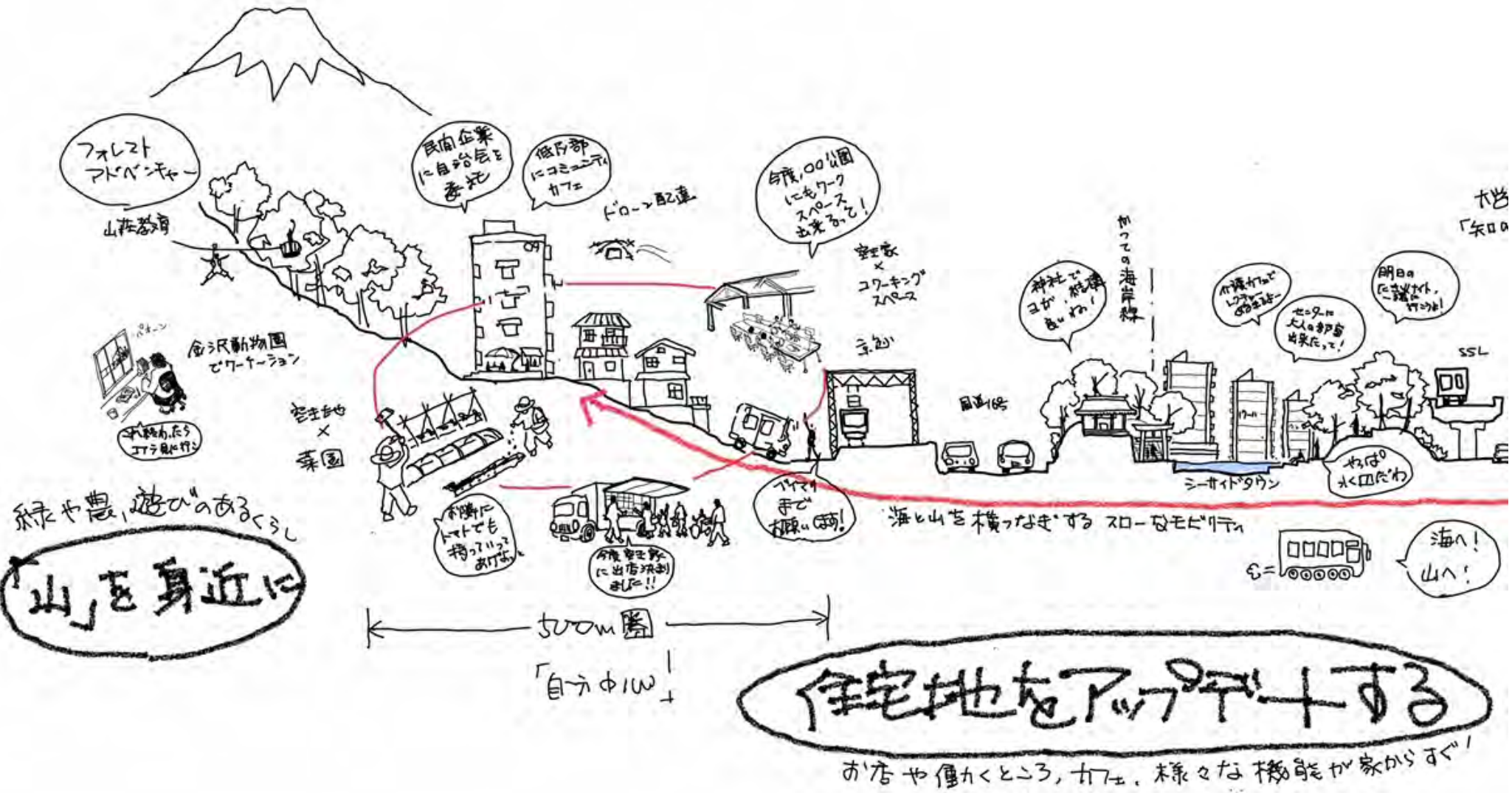
とみまかーと



より多様な
海との関係



4 金沢区マスタープロジェクト



4 金沢区マスタープロジェクト



4 金沢区マスタープロジェクト



アップデートする

たけ、様々な機能が家からすぐ!